

知識：大きなミスを防ぐ基本的知識

国家試験で覚えたバンコマイシン！

臨床に出て良く使う薬に抗菌薬（抗生物質）がある。基本的なことを覚えているだろうか？

ヒトの細胞にない‘細胞壁’をターゲットとするものと‘蛋白合成’を阻害するものに分類できることを、、。後者は濃度を間違えば、強い合併症が起きる。

知識は身を助ける！

10倍誤点滴 乳児指切断

筑波大病院 患者間違え指示

茨城県つくば市の筑波大付属病院(院長)で昨年七月、入院していた乳児が院内感染の治療の抗生物質を通常の十倍量点滴され、その副作用などで血腫障害を起して、手の指五本を切断する被害を受けていたことが二十五日、明らかになった。病院によると、主治医が別の患者の点滴量と同量で副主治医の研修医に口頭で指示、副主治医も患者の体重などを

確認せずに看護婦に点滴の指示をしていたという。同病院では今月初めにも、患者を取り違えて肺の切除手術をする事故が発覚したばかり。

乳児は、同病院小児科に入院中にメチリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)の院内感染を併発。昨年七月十三日、その治療薬である**バンコマイシン**の点滴を受けることになった。

点滴の適正な量は、一二

十五、グラムを一日三回」だったが、主治医が口頭で「二百五十、グラムを一日三回」と指示。それを受け副主治医が看護婦に書面を指示し、一回目の点滴を同日午後五時から手首の静脈に行った。

翌十四日の午前二時と十時の二回は、点滴の部位をもう一方の手の中に変え、量も二百、グラムにした。同日正午、乳児の手がはれるなどの異常を看護婦が見つけ、別の研修医に報告。

この研修医が指平書調べ直し、点滴量が過剰だったことに気づいたという。バンコマイシンには高濃度で点滴すると静脈炎を起す副作用がある。生命に別害はなく、乳児は十二月に退院したという。病院側は当初から過ちを認め、過剰投与がわかった当日、同薬に経過を説明した。だが、補償問題が具体化した今年七月に文部省に

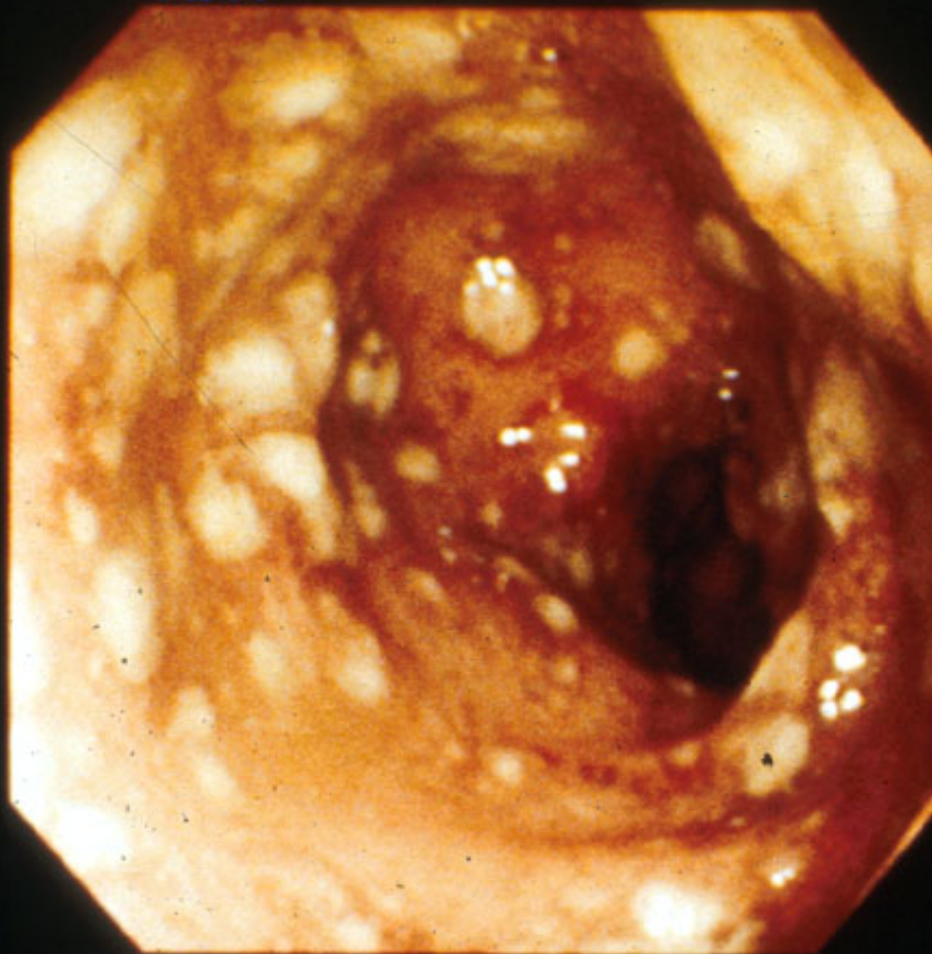
自験例

バンコマイシンは国家試験 でどんな形で出てきた？

0123786
F 38

M.H

84歳女性。
近医にて肺炎疑いで
1週間前より抗菌薬
服用。
昨日より腹痛を伴う
下血を生じる。
体温38度C、筋生防
御なし
大腸内視鏡所見を
示す。



S

8年前の問題より

- 102D-11 偽膜性腸炎について正しいのはどれか。
- a 病原性大腸菌の増殖が原因である。
 - b 突然の新鮮血下血で発症する。
 - c 注腸造影ではバリウムの貯留像として描出される。
 - d 診断には内視鏡検査を行う。
 - e 治療には広域スペクトル抗菌薬を投与する。

a 0.5 % b 2.1 % c 0.5 % d 95.0 % e 2.2 %

8年前の問題より

102D-12 組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 腸結核 ————— 輪状潰瘍
- b Crohn 病 ————— 敷石像
- c 薬物性腸炎 ————— 縦走潰瘍
- d 虚血性腸炎 ————— 偽膜形成
- e 潰瘍性大腸炎 ————— 非連続性病変

a 96.6% b 99.7% c 1.5% d 1.1% e 0.6%

古い国家試験問題

82D-3

48歳の男性。急性気管支炎に既患し、1週間前から抗生物質を服用していた。昨夜から、下腹部痛と頻回の粘血便とが起こり来院した。

大腸内視鏡写真を示す。

適切な治療薬はどれか。

- | | |
|-----------|-----------|
| a カナマイシン | b バンコマイシン |
| c サラゾピリン | d プレドニゾロン |
| e アザチオプリン | |

ワンパターン！

古い国家試験問題

85D—36

62歳の女性。肝細胞癌で3回塞栓療法を受けている。10日前から急性肺炎のため抗生物質で治療を受けていたところ、一昨日から再び38度Cの発熱と下痢を訴えるようになった。大腸内視鏡写真を別に示す。

この患者について適切なのはどれか。

- (1) 好気性菌感染が原因である。 (2) 糞便中に細菌毒素が証明される
(3) 低カリウム血症を来たす。 (4) 高カルシウム血症を来たす。
(5) カナマイシン投与が有効である。

- a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

丁寧に過去問を解
いていけば簡単

抗菌薬の基本

	β-ラクタム系	アミノグリコシド ペプチド系
作用	細胞壁合成阻害	タンパク、核酸 合成阻害
細胞毒性	—	+
有効性と その関連	The time above MIC*	AUC**
PAE***	—	+

*Minimum Inhibitory Concentration: 最小発育阻止濃度

**Area Under the blood concentration time Curve: 薬物血中濃度-時間曲線下面積

***Post Antibiotic Effect: 抗菌薬が微生物に接触した後に持続してみられる増殖抑制効果